

三原市立宮浦中学校第1学年 社会科学習指導案

単元名：北アメリカ州

指導者：三原市立宮浦中学校 高松 康紀

- 1 日 時 : 平成28年11月2日(水) 第5校時
2 場 所 : 1年2組教室
3 学年・学級 : 第1学年2組(40名)
4 単元名 : 北アメリカ州

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領の「(1) 世界の様々な地域」の中項目「ウ 世界の諸地域」に基づいている。ここでは、州ごとに様々な面から地域的特色を大観させ、その上で主題を設けて地域的特色を理解させるようにすること。その際、主題については、州の地域的特色が明確となり、かつ我が国の国土の認識を深める上で効果的な観点から州内の特色ある地理的事象を基に設定し、その追及を通してそれぞれの州の地域的特色を理解させることを主なねらいとしている。

本単元では、北アメリカ州の農業生産力だけでなく工業生産力も世界をリードしていることに注目させる。巨大な規模での生産と貿易、工業都市の分布、工業製品の流通システム及び大量消費していく人々の暮らしに迫り、世界経済の中心である北アメリカ地域の地域的特色を理解させることを目指している。

(2) 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本校で育成しようとする資質・能力は以下の5点である。

【知識】	【スキル】	①課題解決能力	②表現力		
【意欲・態度】		③主体性	④協調性	【価値観・倫理観】	⑤公共心

この中から、本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわりについて、次の1点に重点を置くものとする。

【知識】・【スキル】

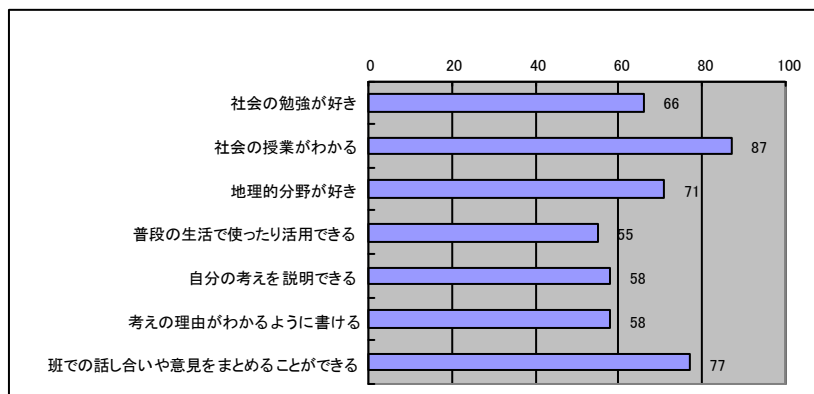
②表現力 北アメリカ州の工業の特色を、そこに暮らす人々の生活のようすや資料をもとに、多面的・多角的に考察し、その結果を表現することができる。

(3) 生徒観(調査結果からみる課題)

本学級は授業中、活発で真面目に取り組む生徒が多い。積極的に発表する生徒がいる一方で、受け身になっている生徒も少なくない。自分の考えや意見を説明したり、まとめて発表するとなると消極的になる姿が見られる。ワークシートやノートには自分の考えや意見を書いているが、間違ったらいけないという気持ちが原因ではないかと考えられる。

10月のアンケート結果から

「社会の授業が分かる」という項目では、肯定的な評価が87%であったことに対し、「自分の考えを説明できる」、「考えの理由が分かるように書ける」という項目ではともに58%と肯定的な評価が低い。



「普段の生活で使ったり、活用できる」の項目で肯定的に答えた生徒は55%だった。

また、「社会の勉強が好き」という項目については66%と肯定的な評価が低かった。社会科に対し苦手意識を持っている生徒が多いというのが原因であるのではないかと考える。苦手という意識があるので、普段からも積極性が足りない生徒がいるように見える。

(4) 指導観(指導改善のポイント)

本時では、北アメリカ州の工業の様子を世界規模で流通していることと関連付けて考えさせ、課題を克服させるための取り組みを行う。資料の読み取りにおいて、様々な資料の読み取り、変化や関連すること、比較することが上手くできていない点が多いので、周囲の生徒と意見交換を行うことで資料の様々な角度からの発想を大事にし、視野が広がる見方ができる生徒の育成に活かし広げていきたい。資料や地図の読み取りを苦手だと感じている生徒も多いので、どうやって資料や地図を見て解答をするのか明確に提示して考えやすくしたい。

授業に積極的に参加できない生徒に対し、グループ学習を活用して周囲の生徒とのコミュニケーションから考えや答えを導いたり、机間指導でヒントや身近な話題から興味を持たせ、「できた」「できる」という喜びをもたせたい。自分の意見に対してなかなか自信をもてない生徒もいるので、この活動を通じて達成感、やればできるという自信を身に付けさせ、表現力を高める作業を進めていきたい。

5 単元の目標と評価規準

単元の目標

- 世界に大きな影響を与える北アメリカ州の産業や文化について、広大な国土、豊富な資源・労働力を利用して大規模な工業が世界をリードし続けている姿について考える。

単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
世界に大きな影響を与える北アメリカ州の産業や文化について、興味・関心をもって意欲的にとらえようとする。	北アメリカ州の地域的特色を、そこに暮らす人々の生活のようすをもとに、多面的・多角的に考察し、その結果を表現することができる。	地図や統計資料などから、北アメリカ州の自然や産業の特色を読み取ることができる。	多様な民族が暮らすアメリカ合衆国において、広大な国土を利用して大規模な農業が行われていることや世界をリードし続けている工業の姿について理解している。

6 指導と評価の計画

全5時間 (本時は4/5)

次	学習内容(時数)	主な学習内容				資質・能力の評価 (評価方法)
		関	考	技	知	
1	北アメリカ州の自然環境 課題の設定	◎	○			北アメリカ州の自然環境に関心をもち、意欲的に追及している。地形や気候を中心に、北アメリカ州の国々や西経100度を中心に分けられる自然環境など基本的な特色を表現できる。

2	移民の歴史と多様な民族構成 情報の収集				資料から北アメリカ州の多様な民族構成や文化について適切に読み取ることが出来る。	
3	大規模な農業と多様な農産物 情報の収集			○	大規模農業や適地適作などの北アメリカ州の農業の特色について感心をもち、意欲的に追求している。	
4	世界をリードする工業 情報の収集			◎ ○	アメリカが世界に与えるこれからの影響について多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。鉱工業の分布図を活用し、アメリカ合衆国の工業の特色を地域ごとに分けて読み取っている。	②表現力 ワークシート 行動観察
5	世界に広がるアメリカが州国の影響 まとめ・創造・表現				○ アメリカの人々の生活や文化の特色を理解し、その知識を身につけている。	

7 本時の展開

(1) 本時の目標

北アメリカ州の世界規模な工業の特色と発展してきた背景に着目してまとめられる。

(2) 観点別評価規準

◎アメリカの工業の生産、流通が世界に与える影響について多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現することができる。

評価方法：ワークシート・行動観察

(3) 準備物

教科書、資料集、地図帳、ワークシート、ホワイトボード、マーカー、電子黒板

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項 (■) (努力を要する生徒への指導の手立て◆)	○育成しようとする 資質・能力 ●教科の評価
導入	<p>○アメリカの会社の商標または、商品に関連するものについてのクイズを考える。</p> <p>課題の設定</p> <p>○本時の目標の確認</p>	<p>■アメリカの企業と我々の生活が結びついていることに気づかせる。</p>	
<p>【本時の目標】アメリカの工業がどのような場所で発達し、世界経済をリードしているかまとめられる。</p>			
展開	<p>○アメリカの自動車社会についての問題を解く。</p> <p>個人思考</p> <p>○自動車が売れなくなってきた原因を考え、新しい産業が進んだ理由を考える。</p> <p>個人思考</p>	<p>■アメリカは国土が広く、移動には自動車が欠かせないことに気づかせ、自動車産業などがさかんなことを理解させる。</p> <p>■他国との生産競争に遅れをとったことに気づかせる。</p>	<p>②表現力 (ワークシート) 情報を整理して、わかったことをアメリカの工業都市の立地条件を表現することができる。</p>
	<p>○新しい産業は北緯 37 度より南のサンベルトで発達し、その理由について考える。また、新エネルギーの開発も進めていることに考える。</p> <p>個人思考</p> <p>○アメリカの工業都市のプリントを配布。産業がどこの地域で発展したか立地条件を基に班で話し合いをする。</p> <p>集団思考</p>	<p>■スライドを通じて発達した場所を掲示し、理解させる。</p> <p>◆資源に注目させて、立地条件を考えさせる</p>	
<p>生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の国が作っていない産業に力を入れた。 ・航空機やコンピュータに産業が集中した。 		<p>生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源が豊富なところに立地したから。 ・沿岸部に立地している。 ・船が入りやすいところに立地している。 ・賃金が安いところ。 	

ま と め	○まとめ・自己評価 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; display: inline-block; padding: 2px 10px; margin-top: 5px;">振り返り</div>		
-------------	---	--	--

(5) 育成したい資質・能力の評価基準

資質・能力	評 価 基 準
② 表現力	A アメリカの工業が発達した背景や新しい産業を整理して、わかりやすくまとめ、工夫して表現できる。 B アメリカの工業が発達した背景、新しい産業を整理して、わかったことを表現することができる。 C アメリカの工業について整理し、表現することができる。

(6) 板書計画

五大湖周辺の石炭・鉄鉱石→水運の利用

19世紀～ 鉄鋼業（ピッツバーグ）

20世紀～ 自動車産業

20世紀後半～ 先端技術産業

↓

北緯37度より南のサンベルトで発達
なかでもシリコンバレーには、大学や研究機関、ICT関連の企業が集中

特徴を見てみよう

○デトロイト → 自動車

○ピッツバーグ → 鉄鋼業 【アパラチア山脈から】

○シカゴ → 食品

○ヒューストン → 石油化学・宇宙工学
【メキシコ湾の油田から】

○シアトル → 航空機産業

まとめ

原料が得やすいところ、交通の便が良いところ、労働力が得やすいところなどに立地している。近年は、資源や労働力が豊富な南部・西部に工業の中心が移っている。